



学校だより 2月号

令和7年1月31日

横浜市立市場小学校 Tel(581)2107

FAX(581)9387

けやき分校 Tel(580)0105

FAX(580)0135

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/ichiba/>



春の足音

副校長 西 かおり

新しい年を迎えたのがつい昨日のように感じていましたが、あっという間に2月となりました。市場小学校にある梅の木が少しずつ花開き、きれいな緑色の羽をした鶯が遊びにきていました。『梅一輪 一輪ほどの暖かさ』という松尾芭蕉の弟子である服部嵐雪が詠んだ俳句があります。「梅の花が一輪咲くごとに、少しずつ暖かくなっている。」という意だそうです。(諸説あり)この句を子どもたちの様子になぞらえてみると、2月になり学習のまとめや振り返りをするなかで一歩ずつ進級や進学をした先への気持ちを高めていく様子といえるかなと思いました。

一年生のベランダを見ると、植木鉢からチューリップや水仙、クロッカスなどの芽がひょっこり顔をのぞかせています。子どもたちは、「早く花が咲かないかな。」「次の一年生に見せたいな。」と思いを馳せながら水やりを頑張っています。この活動を通して、二年生になる意欲を高めていくのだらうと思います。この時期は、大人も子どもも3月に向けて徐々にあわただしくなっていくと思います。そこで気を付けたいのが、言葉です。「これが終わらないと〇年生になれないよ。」とか「できないなら〇年生からやり直さないよ。」という言葉です。ある書物によると、これは大人が自分自身にかけている言葉の呪縛だそうです。進級進学して学習についていけるだろうかといった不安などが「ちゃんとさせないといけない」という思いになり子どもに伝えてしまうのだそうです。一年生が植木鉢の芽にかける言葉のように、「これが終わると次の勉強が楽しくなるよ。」とか「今うまくいなくても大丈夫。これからがんばってみよう。」と希望がもてる前向きな言葉をかけたものです。ぜひ、2月から3月にかけて、学校から持ち帰るものをお子さんと片づける際に、前向きな言葉をかけてあげてください。学校でも、子どもたちの頑張りに声をかけ次の学年へ繋げていきたいと思っています。



さて、校庭の梅が満開になると春はもうすぐです。寒い日もあると思いますが、子どもたちが希望をもって進級進学できるように取り組んでいきます。引き続き、保護者の皆様、地域の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。